



アンネのバラ

吉高人権だより

2023年 8月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

平穏な日常を求めて

地歴・公民科 成田 淳

宇和島市三間町出身の高山良二さんはカンボジアで地雷除去の活動を長らく続けている元自衛官の社会活動家です。コロナ禍前までは、吉田町国際交流協会から吉田中学校と高校の生徒が1年おきに交代でカンボジアに派遣され、高山さんの地雷除去活動を見学していたので、そのことを聞いたことがある人もいるのではないのでしょうか。

高山さんが初めてカンボジアで活動したのは、1992年に自衛隊が国連平和維持活動（PKO）に参加するため初めて国外に派遣された時でした。なぜカンボジアで地雷除去活動が必要だったのでしょうか。1960年代後半、ベトナム戦争の余波でアメリカがカンボジアに侵攻しことを契機にカンボジア内戦がはじまり、ベトナム戦争集結後に内戦が本格化し、1976年にポル＝ポトによる共産党政権ができます。その後ポル＝ポト政権は知識人層を敵視して強制労働などをさせた結果、数百万の国民が虐殺されました。その政権を倒すために今度はベトナムが武力介入し内戦が続きます。ようやく1989年にベトナムが撤退して内戦は終結しますが、国内には約600万個という地雷が残されました。

その地雷を除去しないと平穏な日常を送ることができません。そこで高山さんは自衛隊退官後もNPOを組織してカンボジアでの地雷除去活動を続けました。地雷が除去されて農業が可能になると、次は農業支援として愛媛県の協力を得ながら農業機械を送ったりするなど活動の幅を広げました。また、現在ではカンボジアで学校を建設するプロジェクトも進行中です。日本の他の団体も学校建設にたくさん参加しています。ところが、先ほどの知識人層が虐殺されたことで教える人材が不足しているという問題も起こっています。カンボジアは長い内戦の影響からなかなか抜け出せていないのが現状なのです。

ウクライナを見てもわかるように、戦争は一度起きたらなかなか終わらないし、終わっても影響が長く残ります。平穏な日常を送ることができることをかみしめながら、そのような日常をこわすような紛争や戦争をどうすれば起こさずにすむのか、普段から考えてみてはどうでしょうか。

【宇和島市人権委員会研修会】

8月1日（火）宇和島地区生徒人権委員交流学習会が行われ、吉田高校から人権委員4名と教員1名が参加しました。この交流会には宇和島地区の6校と北宇和高校・南宇和高校から各校の人権委員が参加し、各高校での人権委員会の活動報告や、部落差別についての研修、宇和島市教育委員会の西尾さんよりハンセン病問題についての講話が行われました。西尾さんはハンセン病訴訟に関わったことをきっかけにハンセン病問題に興味を持ち、ハンセン病患者の人たちが無知と偏見から故郷を追われ、本名も家族も失い、隔離された生活を数十年送り続けてきた理不尽さを学び、人権意識を常にアップデートする必要性や、差別されてきた人たちの痛みをわが事として感じるできないと、いくら人権について学んでも無意味なこと、人権問題を学び、知ったならば次の世代に伝えていく責任があることについて話されていました。



【たんぼぼ読書会会員との交流会】



8月3日（木）宇和町のたんぼぼ読書会の会員さんたちとの交流会を行いました。

たんぼぼ読書会から会員4名、吉田高校人権委員3名、教員2名が参加しました。各自自己紹介をした後、第1回宇和町人権・同和教育学習会でとられたアンケート（「あなたは今、同和問題学習が必要だと思いますか。」）をもとに話し合いを行いました。

差別をなくすには、正しい知識を学ばないと無くならない。差別は人から人へと伝わっていくから正しい知識で断ち切らないといけない。人権・同和教育は必要だという意見が出ました。

また、結婚差別に対して自分の家族の勇気ある発言で差別を乗り越えることができた経験や、自分のルーツについて子や孫に話すかどうか、進路選択について意見交換を行いました。同和問題の当事者の方々から差別を乗り越えるための貴重なご意見をうかがうことができ、有意義な研修会でした。